

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
国語	現代の国語	1	2	必修
教科書	新 現代の国語（三省堂）			
使用教材	常用漢字のワンツートライ、力をつける現代の国語、マナトレ			
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
評価の方法	・小テスト ・学習プリント ・定期考査			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	1 わかり合うために ①伝え合いに大事なことを考える ②「届く言葉、届かない言葉」 鷲田清一 中間考査	①「国語に関する世論調査」から、相手との伝え合い（コミュニケーション）の中では何が重視されているかを考え、また自分が重視していることは何かを考える。 ①考えたことを周りの人と話し合い、より伝わるように発表する。 ②文章の内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ②文章を的確に要約する技術を理解する。
	2 確かな情報を伝えるために ①情報はつくられる ②「ひとまず、信じない」 押井 守 ③「人が死なない防災」 片田敏孝 期末考査	①教科書を読み、「情報はつくられる」とはどういうことか考え説明する。また、つくられた情報の具体例を話し合い、どう対応すべきか考える。 ①情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 ②文章を読み、筆者の主張を理解する。 ②情報と適切につきあう方法について話し合う。 ③文章を読んで、筆者が提示している問題点を理解する。 ③筆者が提示している問題点に対する自分なりの対応策を提案する。 【学び直し】毎週10分から15分程度、語彙力強化を中心に行う。
二学期	3 情報を生かすために ①評価した情報をまとめる 4 よりよい読み手になるために ②「読むことのレッスン」 飯間浩明 ③「コインは円形か」佐藤信夫 中間考査	①2種類の資料を比べ、気付いた点を書き出し、グループで話し合う。 ①それぞれの資料を見た人がどのように行動するか予測し、変化を文章にまとめる。 ②文章を読み、概要を把握する。 ②事例を比較して述べる方法の長所と短所について考え、適切な表現方法を理解する。 ③文章中から「問題」「結論」「理由」の要素を読み取り、筆者の主張を理解する。 ③筆者の示す「理由」は、どのような事例に支えられているか、文章にまとめる。 【学び直し】毎週10分から15分程度、語彙力強化を中心に行う。
	5 場に応じて伝えるために ①構成や展開を意識して発表する 6 説得力を高めるために ②「折々のことば」 鷲田清一 ③「宝探してみたいに本の世界に入っていきます」 芦田愛菜 期末考査	①自分が他者に伝えたいテーマを決め、プレゼンテーションをするための発表原稿を書く。 ①フリップを使いながら発表をする。 ②筆者がこのことばを引用した意図を考えまとめる。 ②自分なりの「折々のことば」をさがして、紹介文を書く。 ③文章を読み、概要を把握する。 ③筆者の読書の楽しみ方や本との出会い方を考え、理解する。 【学び直し】毎週10分から15分程度、語彙力強化を中心に行う。
三学期	7 考えを共有していくために ①「小さな哲学者」 中村安希 8 よりよい書き手になるために ②「ありのままの世界は見えない」 田中真知 ③「ものごとことば」 鈴木孝夫 学年末考査	①文章を読み、概要を把握する。 ①題名の「小さな哲学者」の意味を考え、まとめる。 ②筆者は、人が「世界」をどのように見て作り出すとっているかを理解する。 ②「世界の見え方の違い」についてグループで話し合い、まとめる。 ③「ことば」と「認識」とはどういう関係にあるかを理解する。 ③筆者の説明や論述の仕方を参考にしながら、説得力のある表現とはどういうものか考えまとめる。 【学び直し】毎週10分から15分程度、語彙力強化を中心に行う。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
国語	言語文化	1	2	必修
教科書	新 言語文化（三省堂）			
使用教材	力をつける言語文化			
学習の目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めることができるようにする。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・我が国の言語文化への理解につながる国語の知識や技能を身に付けるようにしている。 ・言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	・「読むこと」の領域において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えようとしている。 ・「書くこと」の領域において、自分の知識や体験の中から題材を決め、材料のよさや味わいを吟味して、明確に表現しようとしている。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させる力を身に付け、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について、自分の考えをもとうとしている。	
評価の方法	学習活動への取り組みや定期考査の内容から知識・技能や思考力・判断力・表現力を評価する。授業中の成果物、提出課題などの提出物の提出状況、取り組みで主体的に学習に取り組む態度を評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	・千年の時が与えてくれる安堵 ・枕草子 ・故事二編（中間考査）	・筆者のものの見方や感じ方、表現の特色に注目して読み取り、それを踏まえて日常生活で気になっている言葉、身の回りの言葉について考えることができる。 ・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話の面白さや、人間描写の巧みさを知る。
	・故事二編 ・ゴール ・春を切り抜く ・沙石集（期末考査）	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・耳にしたことのある言葉を正しく理解し、元になった故事を読むことでさらに理解を深め、日本語の中に中国の古典が広く浸透していることを発見、理解できるようにする。 ・物語の設定や構成を表現に即して読み味わうとともに、関連する資料を使った読み比べや共同的な学習で読みを交流させながら、自分の解釈を深めることができる。 ・文章の論理展開や人物設定の理解を踏まえて、登場人物の心情の変化を正確に読み取り、作品の背後に広がることを想像し、続きを創作することができる。 ・書いた文章をお互いに読み合い、意見交流をして、自分の考えをさらに深めることができる。
二学期	・説苑 景公之馬 ・和歌十首 ・短歌、俳句に表す（中間考査）	・長めの史伝を読んで、登場人物を押さえ、文章の特徴と読み解き方を理解することができる。 ・それぞれの和歌の形式、リズム、表現方法に着目し、作者の内面世界を読み取る。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、五感を磨き、語彙を豊かにしようとする。
	・伊勢物語 ・羅生門 ・十八史略（期末考査）	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解することができる。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、自分の考えをもち、集団で交流することができる。 ・長めの史伝を読んで、登場人物を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解することができる。
三学期	・漢詩四編 ・徒然草 ・論語八章 ・オムライス（学年末考査）	・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・思索的な随筆を読んで、作者の批評的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・物語に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
地歴・公民科	歴史総合	1	2	必修
教科書	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社）			
使用教材	新詳 歴史総合（浜島書店）、現代の歴史総合 要点整理テスト（山川出版社）			
学習の目標	社会的事象に対する歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり考察する活動を通して、国際社会に主体的に生き、社会の有為な形成者となるために必要な資質・能力を育成する。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・歴史事象を世界と日本を関連付けて捉え、現代の諸課題に関わる近現代の歴史を理解する。 ・資料を適切に読み取り、まとめる技能を身につける。 【学び直し】日本や世界の地名を覚える。	・近現代の歴史に関わる事象を時期や推移、関連性などに着目して考察し、その意義を適切に判断し、議論したり自分の意見を表現する力を養う。 「学び直し」論理的考え、漢字を用いて簡潔な文で表現できる。	・近現代の歴史を学ぶことにより、より良い社会の実現のために、課題を主体的に追求し解決しようとする態度を養う。 ・日本の文化に対する理解を深め愛着を持つとともに、他国の文化を尊重する態度を養う。	
評価の方法	授業態度、発問評価、課題提出、定期考査			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	第1章結びつく世界と日本の開国 ・18世紀の東アジア社会と経済 ・貿易が結んだ世界と日本 ・産業革命 ・中国の開港と日本の開国 〈中間考査〉	18世紀の東アジアにおける社会と経済の特徴を理解する。 18世紀に日本がどのような形で世界と結びついてきたのかを考察し、表現する。 - 産業革命の背景や経過、世界の一体化へおよぼした影響を理解する。 - 中国の開港と日本の開国の背景や影響について、自ら問いをたてて考察し表現する。
	第2章 国民国家と明治維新 ・市民革命 ・明治維新と日本の産業革命 ・帝国主義 ・変容する東アジアの国際秩序 ・日露戦争と東アジアの変動 〈期末考査〉	- アメリカ独立宣言やフランス人権宣言の共通点と相違点を考察する。 - 日本の立憲国家の成立過程を、欧米と比較し、その意味や課題を考察する。 - 日本の産業革命の特徴を、課題意識を持って追究する。 - 欧米諸国はなぜ帝国主義化したのか、資料を通して考察する。 - 日清・日露戦争が、東アジアの国際秩序や日本の帝国主義政策に与えた影響を考察する。
二学期	第3章 総力戦と社会運動 ・第一次世界大戦の展開 ・ソ連の成立とアメリカの台頭 ・アジアのナショナリズム ・消費社会と大衆文化 〈中間考査〉	- 第一次世界大戦が人々の生活や社会に与えた影響について考察する。 - 第一次世界大戦後のアメリカとソ連の影響力について、課題意識をもって追究する。 - 朝鮮半島や中国、インドなどにおけるナショナリズムの展開を理解し、特色や相違を考察し表現する。 - 諸資料を活用して、大量生産・消費がもたらした大衆文化の広がりや、新たな課題について考察する。
	第4章 経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌の時代 ・ファシズムの伸長と共産主義 ・日中戦争・太平洋戦争への道 ・第二次世界大戦下の社会 ・国際連合と国際経済体制 ・占領と日本の戦後改革 〈期末考査〉	- アメリカで発生した大恐慌が、日本やヨーロッパに与えた影響について追究する。 - 諸資料から、ムッソリーニ政権とヒトラー政権の特色や共通点、大衆から支持を受けた社会的背景を理解する。 - 諸資料から、日本の政府と軍部の関係、中国との関係、日米対立の高まりと太平洋戦争に至った背景と過程を理解する。 - 国際連合の成立過程や目的、課題を理解する。 - 占領は日本をどのように変えたのかという問いに対して、課題に取り組み表現する。
三学期	第5章 冷戦と世界経済 ・冷戦の動向と国際社会 ・日本の高度経済成長 第6章 世界秩序の変容と日本 ・経済の自由化とグローバリゼーション ・冷戦の終結とソ連の崩壊 ・地域統合の拡大と変容 ・現代と私たち 〈学年末考査〉	- 諸資料から、アメリカと西ヨーロッパの動向と、ソ連・東ヨーロッパとの関係がどのように変化したかを考察する。 - 核兵器について国際社会はどのように向き合うべきなのかを考察し、自らの考えを表現する。 - 経済成長や公害について追究し、現代の諸課題について考察する。 - 新自由主義およびグローバル化が広がった背景とその影響について考察する。 - EU、ASEANなどの地域統合の特徴と課題を理解する。 - これからの日本と東アジアおよび世界の国々との関係はどうあるべきか、他者と意見交換しながら考察し、自らの考えを表現する。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
数学	数学Ⅰ	1	3	必修
教科書	新編 数学Ⅰ（数研出版）			
使用教材	・新編 数学Ⅰ ナビゲーションノート ・書き込み式シリーズ標準Study-Upノート			
学習の目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。【学び直し】毎授業の最初に行う小・中学校での既習内容の復習を通して、基礎を定着させる。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価の方法	学習活動への取り組みや提出ノートや提出課題などの提出物の状況で主体的に学習に取り組む態度を、定期考査や振り返りシート、レポートの内容から知識・技能や思考力・判断力・表現力を評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	第1章 数と式 第1節 式の計算	・単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。 ・式に関する用語や分配法則・指数法則などの計算に必要な法則を理解し、正しく使用することができる。 ・複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。
	中間考査	
	第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	・有理数、無理数、実数の定義を理解し、それぞれの範囲での四則計算の可能性について理解している。 ・平方根の意味、性質を理解し、根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりすることができる。 ・平方完成を利用してグラフの軸や頂点を調べ、グラフをかくことができる。
二学期	期末考査	
	第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	・2次関数の定義域に制限がある場合に、平方完成やグラフを利用し、最大値、最小値を求めることができる。 ・2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 ・2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を判別式の符号から考察することができる。 ・2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。
	中間考査	
三学期	第2章 集合と命題 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	・命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を調べることで、命題の真偽を決定することができる。 ・命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。 ・直角三角形において、正弦、余弦、正接が求めることができ、さらに、辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。 ・余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。
	期末考査	
	第5章 データの分析	・度数分布表、ヒストグラムについて理解し、それらから全体の傾向を考察しようとするすることができる。 ・平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ・範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。また、箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ・データについて、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。
	学年末考査	

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
数学	数学A	1	2	必修
教科書	新編 数学A（数研出版）			
使用教材	・新編 数学A ナビゲーションノート（数研出版） ・書き込み式シリーズ標準Study-Upノート（数研出版）			
学習の目標	図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価の方法	学習活動への取り組みや提出ノートや提出課題などの提出物の状況で主体的に学習に取り組む態度を，定期考査や振り返りシート，レポートの内容から知識・技能や思考力・判断力・表現力を評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	・集合を考えることで，日常的な事柄などの場合の数の数え方に関心を持ち，順列や組み合わせの考え方を利用して数学的に数えようとする。 ・和集合や補集合について理解し，要素の個数を求めることができるとともに，図示することで集合の要素の個数を考察できる。 ・和の法則，積の法則の利用場面を理解し，使い分けができるとともに，場合の数を考える適切な方針を考察できる。
	中間考査	
	第1節 場合の数 第2節 確率	・順列，円順列，重複順列の公式を理解し，利用できるとともに，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理できる。 ・組み合わせの公式を理解し，利用できるとともに，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理できる。 ・様々な確率の考え方に興味・関心を持ち，日常の事象における不確実な事柄について判断する際に，積極的に活用，考察しようとする。 ・確率の意味や基本性質，試行や事象の定義を理解し，確率の求め方が分かるとともに，試行の結果を事象捉えて一般的に考察できる。
二学期	第2節 確率 第2章 図形の性質 第1節 平面図形	・複雑な独立試行の確率を公式や加法定理などを用いて求められるとともに，既存の知識を利用して反復試行の確率について考察できる。 ・条件付き確率について，図や表などを用いて考察できるとともに，条件付き確率や情報定理を用いて確率の計算ができる。 ・期待値について理解し，期待値を求められるとともに，結果が不確実な状況下において選択の有利・不利を期待値を用いて考察できる。 ・線分の内分・外分，平行線と比などを理解し，利用できる。 ・三角形の外心，内心，重心の定義，性質を理解し，利用できる。
	中間考査	
	第1節 平面図形 第2節 空間図形	・図形の性質や定理の導き方に興味・関心を持ち，図形の性質について積極的に考察しようとする。 ・チェバの定理，メネラウスの定理について論理的に考察できるとともに，定理を理解し三角形の中に現れる線分比を求められる。 ・2つの円が内接しているときに成り立つ性質を利用し，角度を求められる。また，共通接線の定義を理解し，その長さを求められる。 ・空間における2直線の位置関係やなす角を理解し，与えられた立体に直線と平面の関係当てはめて考察できる。
三学期	第3章 数学と人間の活動	・約数・倍数について理解し，いろいろな倍数の判定法を利用できる。また，既知の倍数の判定法から未知の倍数の判定法を類推できる。 ・最大公約数・最小公倍数を求めることができるとともに，身近な事象との関係について考察できる。 ・互除法の原理を図を用いて考察・理解し，互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 ・1次不定方程式の特殊解を求め，それによりすべての整数解を求められる。また，日常的問題と関連付けて考察できる。
	学年末考査	

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	科学と人間生活	1	2	必修
教科書	科学と人間生活（数研出版）			
使用教材	科学と人間生活 サポートノート（数研出版）			
学習の目標	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことなど通して理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。	
評価の方法	知識・技能 …… 定期テスト で評価 思考・判断・表現 …… 定期テスト、単元毎の学習プリント、提出課題 で評価 主体的に学習に取り組む態度を評価 …… 単元毎の学習プリント、提出課題 で評価			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	第1編第1章 ①～③金属 ④～⑥プラスチック ⑦資源の再利用 中間考査	・現代の生活では多くの金属が私たちの生活を支えていることを気づかせる。 ・【学び直し】金属に共通する性質を確認し、身近な鉄・銅・アルミニウムの性質と利用例・製錬方法、金属の腐食（さび）について理解させ、それを防ぐ方法をあわせて理解させる。 ・【学び直し】プラスチックの一般的な性質を確認し、構造を理解させる。 ・プラスチックの構成元素を理解させ、燃焼によって生じる物質について気づかせる。 ・身のまわりのプラスチック、機能性プラスチックについて理解させる。 ・資源の再利用について、意識を高めさせる。
	第1編第2章 ⑤～⑧栄養素 第2編第2章 ①②微生物 ③④発酵 ⑤医薬品への微生物利用 期末考査	・【学び直し】栄養素（デンプン・タンパク質・油脂・無機質・ビタミン）について確認し、その特徴や構造を理解させる。また、どのような食品に多く含まれるのかを気づかせる。さらに、栄養素の消化と【学び直し】吸収について理解させる。 ・身の回りの微生物の特徴や発見の歴史を理解させる。 ・乳酸発酵やアルコール発酵を例に、微生物のはたらきが食品に欠かせないものであることに気づかせる。 ・ワクチンや抗生物質などがどのような物質であるのかを理解させるとともに、それらの医薬品の生産に微生物が利用されていることを理解させる。
二学期	第2編第1章 ⑦眼の構造 [1]～[3] ⑧光と生命活動 [1] [2] 第3編第1章 ①光の色 中間考査	・【学び直し】ヒトの眼の基本的な構造を確認し、視細胞について理解させる。 ・盲斑や黄斑の存在を、実験を通して気づかせる。 ・【学び直し】明暗調節や遠近調節の仕組みを、実験を通して理解させる。 ・光の情報が脳で処理されて視覚が生じることを、実験を通して気づかせる。 ・体内時計が光の刺激により調節され、ヒトの行動に関わっていることを理解させる。 ・【学び直し】光の特徴（三原色など）を確認し、光が波であることを理解させ、目に見えない光にも気づかせる。
	第3編第1章 ②光の直進と反射 ③光の屈折と全反射 ④光の分散と散乱 ⑤光の回折と干渉 ⑥⑦電磁波 期末考査	・【学び直し】光の直進・反射・屈折の原理を確認し、分散・回折・干渉などの現象について理解させる。理解を深めるため、作図や計算をさせて、丁寧に取り組ませる。 ・光は電磁波の一種であることを理解させる。 ・身の回りにおける光の現象について気付かせる。 ・電波、赤外線、紫外線、X線やγ線といった電磁波は、それぞれどのように利用されているか学習させる。赤外線や紫外線の性質については、実験を通して理解を深めさせる。
三学期	第4編第2章 ①プレート ②③地震 ④⑤火山 ⑥水と自然 ⑦災害 学年末考査	・地球の内部構造について理解し、【学び直し】地球表層を動くプレートによって、地形の起伏がつくられていることを理解させる。 ・【学び直し】地震発生のしくみ、マグニチュードと震度の違いを理解させる。 ・日本列島はプレート境界にそって多くの地震が発生することを理解させる。地震によって発生する災害やその危険性について気づかせる。 ・【学び直し】火山噴火のしくみ、マグマの性質と火山の種類の関係性を理解させる。 ・火山は私たちの生活に恵みをもたらしていることを気づかせる。 ・【学び直し】風化、侵食、運搬の3作用を理解させる。それらの作用によって、山地、河川ぞい、平野ではそれぞれ特徴的な地形が形成されることを理解させる。 ・災害に対する意識を高め、ハザードマップの活用方法を知る。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	体育	1	3	必修
教科書	現代高等保健体育 ステップアップ高校スポーツ			
使用教材	保健体育簿			
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するために、計画を工夫している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	
評価の方法	・【学び直し】授業開始時に集団行動を実施する。 ・主体的に学習に取り組む姿勢と態度。仲間と協力しながら学ぶ意欲。リスクマネジメントの意識。準備や後片付けの姿勢。学習ノート。欠席・見学回数等を総合的に評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	体づくり運動 陸上競技 スポーツテスト	・体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつながりを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めることができる。
	球技（選択制）	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。
二学期	陸上競技（長距離走）	・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。
	球技（選択制）	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。
三学期	球技（選択制） （体育理論） スポーツの発祥と発展	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 ・スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。 ・スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	保健	1	1	必修
教科書	現代高等保健体育			
使用教材	現代高等保健体育ノート			
学習の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	
評価の方法	授業態度、課題提出、グループワーク、発表、定期考査などを総合して評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	〈現代社会と健康〉 健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 期末考査	- さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 - わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 - 生活習慣病の種類と要因について説明できる。 - がんの種類や原因について説明できる。 - 健康と運動の関係について説明できる。 - 食事と健康の関係について説明できる。 - 健康的な食事のとり方について説明できる。 - 健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 - 健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について説明できる。 - 喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。 - 飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 - 飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。 - 薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。
二学期	精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり （安全な社会生活） 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成交通における安全 期末考査	- 精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 - 現代社会における精神保健の課題をあげることができる。 - 精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。 - 精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 - 新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。 - 感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 - 感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。 - ほかの感染症と異なる点について説明できる。 - 意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 - 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。 - 社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 - 事故の実態と被害の実態について説明できる。
三学期	（安全な社会生活） 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法 学年末考査	- 安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 - すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。 - 交通事故における責任を3つに分けて説明できる。 - 応急手当の意義について説明できる。 - 傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。 - 実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。 - 心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
芸術	音楽Ⅰ	1	2	必修
教科書	MOUSA1			
使用教材				
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	・すべてにおいて主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・自己評価や他者評価を通じて客観的に自己を捉え、それを生かしながら、基礎・基本的な資質・能力の向上に努めている。	
評価の方法	授業態度、課題提出、実技試験、筆記試験			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう	歌唱：校歌、「ヴォイストレーニング」 Lemon、翼をください ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌うことができる。 【学び直し】良い音楽を奏でる・聴くための授業態度について確認する。
	表現を工夫してギターを演奏しよう	器楽：「第三の男のテーマ」 ・曲想とギターの音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体を使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫することができる。 【学び直し】上達度を自己評価させることで客観的に自分を把握する。
	音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう	鑑賞：「音楽を織りなすさまざまな要素」、組曲《動物の謝肉祭》 ・音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、根拠をもって曲や演奏を批評することができる。 【学び直し】語句を提示し、その語句を参考に自分の考えを言語化する。
二学期	器楽アンサンブルを楽しもう	器楽：「ミッション：インポッシブルのテーマ」 ・器楽アンサンブルによる表現の特徴を理解し、それを生かして演奏したり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏することができる。
	日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう	歌唱：「花」、「O sole mio」 ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けながら、イメージを持って表現を工夫して歌うことができる。
	オノマトペでリズム・アンサンブルをつくろう	創作：「オノマトペでリズム・アンサンブルをつくろう」 ・オノマトペを連ねたり重ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現をすることができる。
三学期	作曲家の生涯と作品をたどろう	鑑賞：「クローズ・アップ・マエストロ」、W.A. モーツァルト ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、根拠をもって曲や演奏を批評することができる。
	能や謡に親しもう	鑑賞：能《道成寺》 歌唱：歌唱：能《高砂から》能《羽衣から》 ・能の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して謡うことができる。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
美術	美術Ⅰ	1	2	必修
教科書	高校生の美術 1（日本文教出版）			
使用教材				
学習の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、美術を愛好しようとするための関心や意欲を高めている。	
評価の方法	・授業態度、課題提出、作品提出			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	表現・鑑賞 鉛筆画「ふでばこを描く」	・形や色彩、明暗、質感などの効果、全体のイメージなどを捉え、線の強弱を生かして表す。 ・ふでばこの特徴を基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 ・身近なものの特徴や美しさなどを捉えて表す学習活動に、主体的に取り組む。 【学び直し】 物体を捉える力を学ぶ
	表現・鑑賞 デザイン「オリジナルキャラクターをつくろう」	・色料の3原色や色相環、グラデーションを実際に絵具で塗って色彩について主体的に学び、理解する。 ・色彩の特性や心情を学びそれをキャラクターとして作品を制作し表現する。 ・伝えたい情報やイメージを色を用いて豊かに表す活動に主体的に取り組む。 【学び直し】 色の種類を学ぶ
二学期	表現・鑑賞 デザイン「暮らしの中の使うデザイン」	・使う人や場面、デザインの目的や条件、機能や用途、美しさなどを考えて表す。 ・使う人の心情や使用する場などで求められる機能と美しさとの調和、材料の性質や構造などについて考える。 ・目的や条件などを基にし、デザインの機能や効果、美しさについて理解を深める学習活動に、主体的に取り組む。 【学び直し】 身の回りにあるデザインされたものを確認する
	鑑賞 絵画「日本美術」	・金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式などを理解する。 ・屏風や掛軸、絵巻などのよさや美しさ、日本の美術の表現の特質、美術文化の継承と創造について考える。 ・屏風や掛軸、絵巻などのよさや美しさなどを鑑賞する学習活動に主体的に取り組む。
	表現・鑑賞 絵画「墨表現の可能性」	・墨の濃淡・にじみやかすれなどの効果を理解し、墨によりつくりだされるイメージを捉え、意図に応じて墨の特性を生かして表す。 ・墨による表現の特性やイメージを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 ・墨による表現の特性を生かして絵画に表す学習活動に、主体的に取り組む。
三学期	表現・鑑賞 絵画「漫画・アニメーションの表現」	・コマ割りや構図、効果線や擬声語などの効果、全体のイメージや作風などを捉え、画材の特性を生かして表す。 ・場面のイメージ、感情や動き、時間の表現などを基に、コマ割りや構図、背景などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 ・漫画・アニメーション表現のよさを生かして表す学習活動に、主体的に取り組む。 【学び直し】 普段見ている漫画・アニメーションの効果などを知る。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
芸術	書道Ⅰ	1	2	必修
教科書	書Ⅰ（光村図書）			
使用教材				
学習の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・ 古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・ 古典に基づく基本的な運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。	・ 字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現名筆を生かした表現について構想し工夫している。 ・ 古典や古筆の創作作品について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	・ 主体的に幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	
評価の方法	・ 毎時間の課題提出 ・ 授業態度			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	書道で学習すること 書写から書道へ 【漢字の書】 ・漢字の変遷とさまざまな書体 ・楷書 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 ・鑑賞	・書道で学習することを知る 【学び直し】学習にメリハリをつける。（聞く、書く、見せる、話す） (1)・古典の書体や書風と用筆・運筆について理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 (2)・古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし書を愛好する心情を養う。 【学び直し】添削時、課題のポイントと生徒が書いた作品のポイントについて個別に質問する。
	【篆刻・刻字】 ・篆刻 姓名印の制作	(1)・用具・用材の特徴について理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解する。
二学期	【漢字の書】 ・行書 蘭亭序 風信帖 ・草書 ・隸書 ・篆書	(1)・古典の書体や書風と用筆・運筆について理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 (2)・古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし書を愛好する心情を養う。
	【仮名の書】 ・仮名の成立と種類 ・仮名の筆使い ・平仮名、変体仮名 ・連綿 ・古典臨書 ・鑑賞	(1)・日本の文字と書の伝統と文化仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 ・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現を身につける。 (2)・仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし書を愛好する心情を養う。
三学期	【漢字かな交じりの書】 ・心に響く言葉を書く ・表現の幅を広げる ・創作しよう ・鑑賞	(1)・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解する。 ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。 (2)・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。 【学び直し】使いやすい語句群を教科書で確認し、使用する。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
家庭	家庭基礎	1	2	必修
教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる（第一学習社）			
使用教材	学習内容のまとめと作業 家庭基礎学習ノート（第一学習社）			
学習の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、課題を設定し、解決策を構想し、実践結果を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現し直すなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に主体的に参画するとともに、自分や家庭、地域の生活向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。	
評価の方法	学習活動への取り組みや提出課題等の提出物の状況で主体的に取り組む態度を、定期考査やワークシート、学習ノートや課題の内容から知識・技能や思考力・判断力・表現力を評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	家庭科の学び方 ー学習から実践へ	・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法を理解する。 ・「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法を理解する。
	1章 これからの生き方と家族	・歴史的、文化的、社会的制度としての家族について理解する。 ・相互の尊重と信頼関係のもと夫婦関係を築くこと、共に協力して家庭を築くことの意義や重要性について認識する。
	2章 次世代をはぐくむ	・言語、認知、情緒、社会性等の発達や、親との愛着形成が将来の人間関係の基礎となることを理解する。 ・遊びは子どもの生活において重要であり、遊びを通して様々な心身の発達が促されることを理解する。
	3章 充実した生涯へ 期末考査	・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。 ・高齢者福祉の基本理念やサービス等についてふれ、社会の現状と今後の課題について考える。
二学期	4章 とともに生きる	・異なる背景を持つ人々が支え合って生きていく必要性、現代の社会の現状について考える。
	5章 食生活をつくる	・家族や仲間と一緒に食べるメリットを理解し、食事を大切にすることができる。 ・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。 ・食品添加物の用途を理解し、購入時の選択について考える。 ・【学び直し】食事のマナーについて考える。
	6章 衣生活をつくる	・被服の品質表示をもとに、取り扱い表示の種類と意味、サイズ表示の見方等を知り、その重要性を理解する。 ・【学び直し】被服の劣化を防ぐための選択や手入れの方法を理解する。 ・衣生活の面から環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。
	7章 住生活をつくる 期末考査	・家族の生活行為と住空間との関わり、生活行為や動作に必要な広さ、動線などについて理解する。 ・自然災害や人的災害への対策、家庭内事故の防止対策について考える。
三学期	8章 経済生活をつくる	・経済社会の変化が家庭経済に影響を及ぼすことを理解し、正確な情報を収集して主体的に判断し行動する態度を身につける。 ・契約がどのように成立するか知り、契約の重要性を理解する。 ・消費者被害の状況を理解し、原因と対策を考える。 ・持続可能な社会の実現のために一人ひとりが環境に負荷を与えないように工夫する必要があることに気付くことができる。
	5章 食生活をつくる 学年末考査	・【学び直し】調理の基本技術を習得し、日常食を調理できる。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
英語	英語コミュニケーションⅠ	1	3	必修
教科書	COMET English Communication Ⅰ (数研出版)			
使用教材	COMET English Communication Ⅰ ベーシックノート、基本文法定着ドリル【学び直し】マナトレ			
学習の目標	外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつ結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。 【学び直し】英語の基礎・基本を復習し、定着を図りながら高校の学習内容に円滑に接続する。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	① 外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）で活用できる知識・技能を身に付けている。 ② 外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 ③【学び直し】英語の基礎・基本を身に付け、活用できる。	① 幅広い話題について、情報を外国語で的確に理解し、自分の考えをまとめ、適切に伝えている。 ② 話したり書いたりする際に、自分の意見や考えなどを場面、目的、状況等に応じて適切に表現している。	① 他者を尊重し、外国語で得た情報を活用し、粘り強く自分の意見や考え等を表現しようとしている。 ② 言語やその背景にある文化に対する関心を持ち、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ③ コミュニケーション活動に必要な表現等を身につけるため、自らの学習を調整し、粘り強く取り組んでいる。	
評価の方法	授業態度、課題提出、定期考査、パフォーマンステスト（音読テスト、Descriptionテスト）			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	Lesson 1 What Did You Do in Japan? Lesson 2 When Do You Feel Happy? 中間考査	- 各投稿者の日本での体験について書かれた英文を読みとることができる。 - ダイキが熱中していることやその理由について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。 【学び直し】 - 教科書Get Readyでbe動詞や一般動詞、否定文、疑問文などを復習し、ペアで自己紹介する際に活用できる。 - 過去形、進行形の用法を復習し、言語活動に活用することができる。
	Lesson 3 Onigiri Goes Overseas Lesson 4 Pictograms 期末考査	- おにぎりの海外での人気について書かれた英文を読み取ることができる。 - ピクトグラムについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握することができる。 【学び直し】 - 教科書の英文を発音やアクセントなどに注意しながら正しく読むことができる。 - 絵や図を見て既習の英単語や文法を用い、英語で説明することができる。 - 助動詞や不定詞の用法を復習し、言語活動に活用することができる。
二学期	Lesson 5 Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler Lesson 6 Convenience Stores: Keys to Their Success 中間考査	- ファシリティドッグ等についてインタビューを英文で理解することができる。 - コンビニエンスストアの成功のかぎについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学び直し】 - 教科書の英文を発音やアクセントなどに注意しながら正しく読むことができる。 - 絵や図を見て既習の英単語や文法を用い、英語で説明することができる。 - 動名詞やthat節の用法を復習し、言語活動に活用することができる。
	Lesson 7 High School Aquarium Lesson 8 Smart Farming 期末考査	- 高校の水族館部の活動等についての生徒のインタビューの内容を理解できる。 - スマート農業の具体例や利点について書かれた文章を読み取り、概要や要点を把握している。 【学び直し】 - 教科書の英文を発音やアクセントなどに注意しながら正しく読むことができる。 - 絵や図を見て既習の英単語や文法を用い、英語で説明することができる。 - 現在完了形や受け身の用法を復習し、言語活動に活用することができる。
三学期	Lesson 9 Food Waste Lesson 10 William and His Windmill 学年末考査	- 世界の食糧問題や食品廃棄が起こる原因、日本の食糧事情などについて書かれた英文を読み取ることができる。 - ウィリアムが風車を完成させるまでの経緯や、その後、彼に起こったことについて書かれた英文を読み取ることができる。 【学び直し】 - 教科書の英文を発音やアクセントなどに注意しながら正しく読むことができる。 - 絵や図を見て既習の英単語や文法を用い、英語で説明することができる。 - 比較や関係代名詞の用法を復習し、言語活動に活用することができる。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
英語	英語活用I	1	1	必修
教科書				
使用教材	自作プリント			
学習の目標	①ALTの話をよく聞き、積極的に英語を活用しようとする力を養う。 ②英語を聞いてその内容を理解することができる。 ③その作文を元に会話や、発問ができる。 ④対話を読み、その内容に関する問いに英語で答えることができる。 【学び直し】基本的な語彙と英文法を用い、英文で簡単な作文ができる。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	① 外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ② 外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	① 場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ② 聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	① 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ② 言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
評価の方法	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②外国語表現の能力、③外国語理解の能力、④言語や文化についての知識・理解の4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに小テストや授業中の言語活動で総合的に評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期		Lesson1 Self introduction Lesson2 Levelling Hobbies Lesson3 Daily Routine Part1:語彙確認 ペアワークを行い、語句の習得・定着をはかる。 習得した語句を用いて、質問に答える形式で英作文を行う。 Part2:インタビュー、英作文で確認し、英語でのスピーチ発表
	学期末に小テスト	
二学期		Lesson4 Seasons Lesson5 Cultural Festival Interview test Part1:語彙確認 ペアワークを行い、語句の習得・定着をはかる。 習得した語句を用いて、質問に答える形式で英作文を行う。 Part2:インタビュー、英作文で確認し、英語でのスピーチ発表
	学期末に小テスト	
三学期		Lesson6 My Hero Lesson7 Favorite Places Part1:語彙確認 ペアワークを行い、語句の習得・定着をはかる。 習得した語句を用いて、質問に答える形式で英作文を行う。 Part2:インタビュー、英作文で確認し、英語でのスピーチ発表
	学期末に小テスト	

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
情報	情報Ⅰ	1	2	必修
教科書	最新情報Ⅰ（実教出版）			
使用教材	最新情報Ⅰ学習ノート、自作教材			
学習の目標	(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。 (4)【学び直し】 基数変換を通して計算力の学び直しを行う。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	
評価の方法	成果物・考査等			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	情報社会	情報の特性について理解する。
	情報社会の法規と権利	情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 知的財産権について理解する。
	情報技術が築く新しい社会	他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 社会の中で利活用されている情報技術について理解する。
	中間考査	
	メディアとコミュニケーション	メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。
	情報デザイン	インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する 社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。
	情報デザインの実践	情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。 プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。
二学期	情報システムの構成	コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。
	情報のデジタル化	アナログとデジタルの違いについて理解する。 2進数と情報量の関係について理解する。 コンピュータの演算の仕組みを理解する。
	情報通信ネットワーク	さまざまな情報をデジタル化する方法を理解する。 情報通信ネットワークの構成について理解する。 ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。
	中間考査	
三学期	情報セキュリティ	情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。
	問題解決	問題解決の手順や方法について理解する。
	データの活用	データを収集したり整理したりする方法について理解する。 データ分析の手法について理解する。 データを適切なグラフや図に表現する方法を理解する。
	モデル化	モデル化の意味について理解する。
三学期	シミュレーション	問題解決のためにモデル化し、シミュレーションをする。
	期末考査	
	プログラミングの方法	アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。
三学期	プログラミングの実践	プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 変数を使用したプログラムを作成する。 関数を使用したプログラムを作成する。 多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。
	学年末考査	

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	体育	2	3	必修
教科書	現代高等保健体育 ステップアップ高校スポーツ			
使用教材	保健体育簿			
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するために、計画を工夫している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	
評価の方法	・【学び直し】授業開始時に集団行動を実施する。 ・主体的に学習に取り組む姿勢と態度。仲間と協力しながら学ぶ意欲。リスクマネジメントの意識。準備や後片付けの姿勢。学習ノート。欠席・見学回数等を総合的に評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	体づくり運動 陸上競技 スポーツテスト	・体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分高めることができる。
	球技（選択制）	・次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 - ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 - イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 - ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。
二学期	陸上競技（長距離走）	・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。
	球技（選択制）	・次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 - ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 - イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 - ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。
三学期	球技（選択制） （体育理論） 運動・スポーツの学び方	・次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 - ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 - イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見すること。 ・運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	保健	2	1	必修
教科書	現代高等保健体育			
使用教材	現代高等保健体育ノート			
学習の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	
評価の方法	授業態度、課題提出、グループワーク、発表、定期考査などを総合して評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	〈生涯を通じる健康〉 ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活 期末考査	・ ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・ 各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。 ・ 思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。 ・ 性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・ 性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。 ・ 妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・ 家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ・ 人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。 ・ 心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・ 結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。 ・ 加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・ 高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。 ・ 働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・ 労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・ 労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。 ・ 職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ・ 余暇を積極的にとることの意義について説明できる。
二学期	〈健康を支える環境づくり〉 大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医療品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 期末考査	・ 大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・ 大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。 ・ 水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・ 大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。 ・ 環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ・ 産業廃棄物の処理について説明できる。 ・ ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・ 上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。 ・ 食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・ 食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。 ・ 食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ・ 食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。 ・ 保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・ 保健サービスの活用の例をあげることができる。 ・ わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・ さまざまな医療機関の役割について説明できる。 ・ 医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・ 医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。
三学期	〈健康を支える環境づくり〉 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加 学年末考査	・ 国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・ 行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。 ・ 健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。 ・ 環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
地歴・公民科	公共	2	2	必修
教科書	高等学校公民科 「私たちの公共」 （清水書院）			
使用教材	資料集（ニュービジョン公共 浜島）、ワークノート（私たちの公共ワークノート 清水）			
学習の目標	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する ・現実社会の諸課題の解決に向けて、多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う 【学び直し】・文章の読解力を身につけるとともに、自身の意見を構築する力を養う 【学び直し】・社会の構造を捉えるとともに、日本や世界の基本的特徴も理解する			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深める。	
評価の方法	授業態度、発問評価、課題提出、定期考査、振り返りシート など			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	公共の扉 (1) 社会で生きるということ (2) みんなが幸せな社会とは？ 中間考査	・青年期の課題や人間が社会的存在であることの意義を理解する。 ・自分自身が公共的な空間を作り出す一員である自覚を深めるとともに、他者と協働して社会を作り出すことの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。
	(3) 公共的な空間における基本原理 よりよい社会の形成と参画 (1) 私たちの生活と法 期末考査	・行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。 ・幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを通して、人間としての在り方生き方について考えることがよりよく生きる上で重要であることを理解する。 ・人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。 ・日本国憲法と大日本帝国憲法との比較から相違点を考えたり、日本国憲法の三大原則を理解したりする。 ・具体的な事例を通して、日本国憲法の基本的な権利を理解する。
二学期	(2) 私たちの生活と政治 (3) 平和主義と日本 中間考査	・日本の統治機構と世界の統治機構と比較し、私たちの権利や自由を守るためにどのように組織されているのか理解する。 ・国会や内閣のしくみと働きについて理解する。 ・日本の行政機関の特徴と行政権の拡大の問題点について理解する。 ・日本の統治機構と世界の統治機構と比較し、私たちの権利や自由を守るためにどのように組織されているのか理解する。 ・裁判所のしくみや刑事裁判と民事裁判の違いについて理解する。 ・地方自治のしくみと意義や選挙のしくみと課題について理解する。 ・具体的な事例を通して、我が国の安全保障に自衛隊の果たしてきた役割を理解するとともに、日本の安全保障の在り方について考察、構想する。
	(4) 私たちの生活と経済 (5) 私たちの生活と国際社会 期末考査	・市場メカニズムなど経済の基礎的なしくみと概念について理解する。 ・企業の役割とはたらき、財政と租税のしくみと機能について理解する。 ・「雇用と労働」を事例に、労働者の権利や労働契約を巡る法規制の形態について考察、表現する。 ・社会保障制度の歴史的経過を把握し、制度の内容と課題について理解する。 ・国際社会における国家主権の意味と、国際関係を規律する国際法の意義及びその発達について理解する。 ・国際連合と国際機関の意義と役割について理解する。 ・第二次世界大戦後、世界の体制はどのような展開をしたのかを理解する。また、その歴史の中で、核拡散防止の現状と核軍縮に向けた取り組みについて理解する。
三学期	持続可能な社会を創る 学年末考査	・「よりよい国家・社会の構築」を事例に、主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
地歴・公民科	地理総合	2	2	必修
教科書	わたしたちの地理総合（二宮書店）			
使用教材	わたしたちの地理総合ワークブック（二宮出版社）、コンパクト地理総合地図（二宮書店）			
学習の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	知識：地理に関わる諸事象に関して、基本的知識を身に付け、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への理解を深める。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関するさまざまな情報を適切に調べる技能を身に付ける。 【学び直し】世界の主な国の国名・首都を知る。地形の種類や気候区分を理解する。	地理に関わる事象の意味や特色を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して考察する。地理的な課題の解決に向けて考察したことを効果的に説明する力を養う。 [学び直し]表やグラフなどを正確に読み取り、それが意味することを考察する力をつける。考察したことを、正確な言葉や文章で表現する。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現のために課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や理解を通して、日本国民としての自覚や国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する態度を深める。	
評価の方法	定期考査、レポート、発表、提出物など			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	第1章 地図とGISの活用 1節 球面上の世界 2節 国家の領域と領土問題 3節 国内や国家間の結びつき 〈中間考査〉	・地球を球面として捉え、球面上の位置・方位・距離について正しく認識し、季節・気候を生み出すことを理解している。 ・国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。 ・世界の地域経済圏や国際連合に関する知識を身に付け、地球規模の地域的な結びつきについて理解している。
	第2章 生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化 〈期末考査〉	・地形や気候のなりたちに関する知識を身に付け、それぞれの地理的事象について世界的な視野から読み取ることができる。
二学期	2節 産業の発展と生活文化 3節 言語・宗教と生活文化 4節 グローバル化の進展と生活文化 〈中間考査〉	・世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、分布や変化を概観することができる。 ・世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。 ・EU統合の背景と産業や生活文化への影響、統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸課題を理解している。
	第3章 地球的課題と国際協力 1節 人口・食料問題 2節 居住・都市問題 3節 資源・エネルギー問題 〈期末考査〉	・持続可能な発展のために、人口問題と食料問題を関連させて理解できる。 ・図や統計資料から、人口集中による都市問題について理解できる。 ・エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し、主題図や統計資料をもとに、鉱産資源の偏在性、有限性、消費における地域格差などの諸課題を読み取ることができる。
三学期	第3章 地球的課題と国際協力 4節 地球的環境問題 第4章 生活圏の諸課題 1節 自然環境と防災 2節 持続可能な地域作り 〈学年末考査〉	・地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模で起こっている環境問題の仕組みを構造的に理解できる。 ・日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することを捉えることができる。 ・生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し、身近な地域の魅力やかかえている課題を発見している。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	生物基礎	2	3	必修
教科書	生物基礎（東京書籍）			
使用教材	新課程 ニューアチーブ 生物基礎			
学習の目標	・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てる。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	学習活動への取り組みや提出課題など提出物の状況で主体的に学習に取り組む態度を、定期考査や振り返りシートの内容から知識・技能や思考力・判断力・表現力を評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生物とエネルギー	・【学び直し】生物の特徴を挙げる。 ・様々な生物の特徴を比較し、生物は多様でありながらも全ての生物に共通する性質があることを見いだして理解するとともに、生物の共通性と起源の共有を関連付け、その共通性は共通の起源に由来することを理解する。 ・【学び直し】呼吸、光合成とは何かをそれぞれ説明する。 ・生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解するとともに、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付け、全ての生物は光合成や呼吸などの過程でATPを合成していることを理解する。
	中間考査	
	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA	・DNA の構造を示す資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴を見いだして理解するとともに、塩基の相補性と DNA の複製を関連付けて理解する。 ・【学び直し】メンデルの遺伝の法則を理解する。
二学期	期末考査	
	2編 遺伝子とそのはたらき 2章 遺伝情報とタンパク質	・遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解する。 ・【学び直し】血液の流れを理解する。 ・神経系と内分泌系による調節についての観察、実験などを通して、情報の伝達、体内環境の維持の仕組みについて理解する。
	3編 ヒトの体の調節 1章 体内環境と情報伝達	
三学期	中間考査	
	3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき	・免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解する。
	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移	・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解するとともに、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解する。
三学期	期末考査	
	4編 生物の多様性と生態系 2章 生態系と生物の多様性	・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系には多様な生物種が存在することを見いだして理解する。
三学期	学年末考査	

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	物理基礎	2	2	必修
教科書	高等学校 新物理基礎			
使用教材	新課程版 ネオバルノート 物理基礎			
学習の目標	・物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	学習活動への取り組みや提出課題など提出物の状況で主体的に学習に取り組む態度を、定期考査や身近な物理現象への観察・実験の内容から知識・技能や思考力・判断力・表現力を評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	1章 運動とエネルギー 1節 物体の運動 中間考査	・直線運動における変位、速度、加速度などの運動の表し方を理解する。 ・相対速度や速度の合成、等加速度運動、自由落下運動や鉛直投げ上げ運動について理解する。 ・【学び直し】メモリの読み方を確認する。
	2節 力と運動の法則 3節 仕事と力学的エネルギー 2章 熱 1節 熱とエネルギー 期末考査	・力、重さと質量の違い、フックの法則、力の性質、摩擦力、抵抗力、浮力などのいろいろな力、作用反作用の法則を理解する。 ・慣性の法則、力と加速度の関係と運動の法則を理解する。 ・エネルギーと仕事の基礎概念、マクロから見た熱の意味、ミクロから見た熱の意味を理解する。 ・物質の三態や温度、熱容量や比熱、熱力学第一法則、熱機関、不可逆現象について理解する。
	3章 波動 1節 波の性質 2節 音波 中間考査	・波とは、媒質の振動が次々と時間をかけて伝わっていく現象であることを理解する。 ・波の式 $v=f\lambda$ 、波には横波と縦波があること、波の反射について理解する。 ・音の伝わり方は、波の性質を示すことを理解する。 ・気柱の共鳴や共振について理解する。
二学期	4章 電気 1節 電荷と電流 2節 電流と地場 3節 エネルギーの利用 終章 物理学が拓く未来 期末考査	・電流と電気量、オームの法則や電気抵抗の直列接続、並列接続、金属の抵抗率、電力・電力量やジュールの法則について理解する。 ・直流と交流の違い、電磁誘導、電波の性質について理解する。 ・エネルギーの変換やエネルギー保存の法則について理解する。
	三学期	3学期は「物理」へ移行

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	地学基礎	2	3	必修
教科書	地学基礎（東京書籍）			
使用教材	新課程 ニューサポート地学基礎（東京書籍）			
学習の目標	・地球や地球を取り巻く環境に関わり、科学的な見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。身近な現象について中学校の学習内容を振り返り応用して学習に取り組むことが出来る。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けているか。	観察、実験などを行い、科学的に探究活動に取り組んでいるか。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	学習活動への取り組みや提出課題など提出物の状況で主体的に学習に取り組む態度を、定期考査や身近な物理現象への観察・実験の内容から知識・技能や思考力・判断力・表現力を評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	1 編 私たちの大地 1 章 大地とその動き 2 章 火山活動と地震 中間考査	・地球の形や大きさを、観察結果をもとに計算できる。 ・地球の内部構造を知り、プレートテクトニクスの概念を理解する。 ・火山の種類や溶岩の性質について理解する。火成岩の分類ができる。
	2 編 私たちの空と海 1 章 地球の熱収支 2 章 大気と海水の運動 期末考査	・地球の熱収支について知り、太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量がつり合っていることを理解する。 ・大気の層構造について知り、大気や海流の流れが地球環境にどのような影響を与えているか理解する。 【学び直し】問題文の情報を正しく読み解くことが出来る 温度計などの目盛りを正しく読み解くことが出来る
二学期	3 編 私たちの宇宙の誕生 1 章 宇宙の構造と進化 中間考査	・ビッグバンに始まる宇宙の進化の過程を理解し、銀河群や銀河団がつくる宇宙の大規模構造を知る。 ・太陽系の構造や太陽・惑星の特徴を知り、それぞれの天体の成因を理解する。また、太陽活動による地球への影響を実験や観察を通して理解する。
	4 編 私たちの地球の歴史 1 章 地層と化石の観察 2 章 古生物の変遷と地球環境 期末考査	・堆積の原理や岩石の組成について、観察や実験を通して理解する。 ・生命の誕生と進化について、化石の観察などを通して体験的に理解する。
三学期	5 編 地球に生きる私たち 1 章 日本の自然の恵みと防災 終1 章 地球環境の考え方 終2 章 自然環境の変動 終3 章 これからの地球環境 学年末考査	・日本特有の自然現象と防災について理解する。 ・地球環境を構成する要素と、相互の関係について理解する。 ・温暖化や公害など、自然環境を変動させる要因には何があるか考える力を養う。 ・地球規模での環境変化について、要因や対策について考える力を養う。

令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	体育	3	2	必修
教科書	現代高等保健体育 ステップアップ高校スポーツ			
使用教材	保健体育簿			
学習の目標	・運動の合理的、計画的な実践を通して健康・安全に留意し、知識を深めるとともに運動の技能や体力を向上させ、運動の楽しさや喜びを味わう。 ・運動を通じて、公正、協力、責任、参画、などに対する意欲を高め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を運動場面だけでなく日常生活でも生かせるよう育てる。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するために、計画を工夫している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	
評価の方法	・【学び直し】授業開始時に集団行動を実施する。 ・主体的に取り組む姿勢と態度。仲間と協力しながら学ぶ意欲。リスクマネジメントの意識。準備や後片付けの姿勢。学習ノート。欠席・見学回数等を総合的に評価する。			

<学習計画>

学期	単元	学習内容（到達度目標）
一学期	体づくり運動	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	スポーツテスト 陸上競技（短距離走、中距離走）	・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分高めることができる。
	球技（選択制）	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。
二学期	陸上競技（長距離走）	・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。
	球技（選択制）	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。
三学期	球技（選択制） 体育理論 （豊かなスポーツライフの設計）	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見すること。 ・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。